



## コロナに負けない! ボランティアの絆を絶やさない!

前号のいきいき宣言104号において、原田正樹先生より「どんな状況になろうと、人間の尊厳がウィルスに負けてはならない。隔離ではなく共生できる社会であってほしい。今すぐの活動につながらなくても、私たちはボランティアの灯を消してはならない」(抜粋)と、励ましのメッセージが送られました。

旭区でもコロナ禍により、多くのボランティア活動が休止や縮小となる中、新しいスタートを切ったグループもあります。ある高齢者会食会のグループでは、自分たちの活動の目的を話し合い、「住民の交流を大切にしたい」と皆で共有。食事を作って提供することは感染リスクを鑑み休止しましたが、住民が集まれるサロンを開催することを検討しています。

今までボランティアによって築かれた人と人とのつながりづくりが、新しい形で継続できるよう、旭区社協も取り組んでまいります。旭区社協 Q では、これからの時代にあったボランティア活動を考えるためのガイドラインを作成いたしました。また、横浜市社協 Q から活動の手引きが作成されています。ご参考になれば幸いです。詳しくはそれぞれのホームページをご覧ください。

## 旭区福祉保健活動拠点からのお知らせ



### 「ぱれっと旭」では感染症拡大防止に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職員による共有部分の定期消毒はもちろん、換気のために各部屋にサーキュレーターを、受付に呼気飛散防止シートをそれぞれ設置しています。

三密(密閉、密集、密接)を避け、換気をしながら対人距離を十分にとって活動していただいております。皆さま一人一人の感染予防対策へのご協力のおかげでぱれっと旭での活動ができています。いつもありがとうございます。

その他、ぱれっと旭の詳しい利用についての最新情報は、旭区社協ホームページをご覧ください。



### 善意銀行に寄付いただいた方々 (順不同・敬称略)

令和2年6月1日～8月31日

次の皆さまから善意銀行へご寄付いただきました。ありがとうございました。

(金品寄付) 柳 久子/星野 耕介/匿名3件

(物品寄付) 神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部 / 匿名1件



善意銀行とは、皆様からの善意の寄付金品をお預かりし、必要などころ、または希望された区内福祉施設や当事者団体、地域福祉活動団体などへ配分し、皆さまの善意を広げていく事業のことです。

### 発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35  
TEL:045-392-1123 FAX:045-392-0222  
<http://www.palletasahi.jp/> 旭区社協 Q

●アクセス●  
相鉄線「鶴ヶ峰駅」  
北口より徒歩8分



あさひ 共に支えられ 生きていく

# いきいき宣言

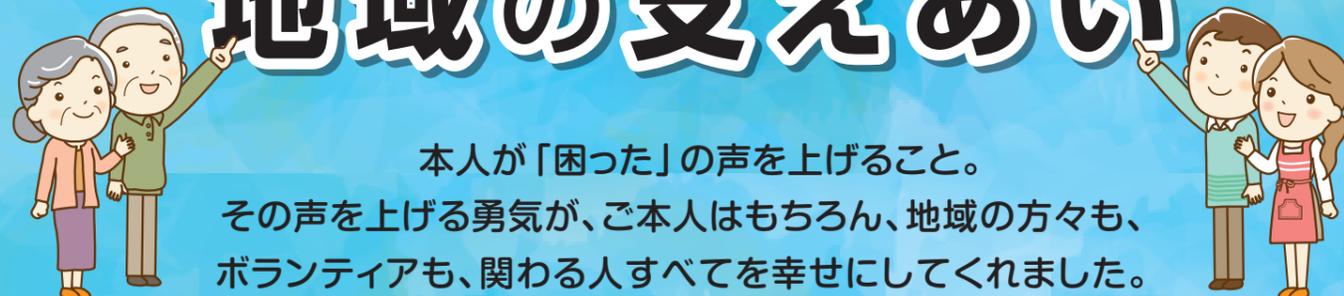


この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の配分金で発行しています。

<http://www.palletasahi.jp/>

旭区社協 Q

# 本人発信から広がる地域の支えあい



本人が「困った」の声を上げること。

その声を上げる勇気が、ご本人はもちろん、地域の方々も、ボランティアも、関わる人すべてを幸せにしてくれました。

今回のあさひいきいき宣言では、そんな素敵なお話をご紹介します!

地域共生社会を目指して

# 共に支えられ 生きていく

横浜市旭区社会福祉協議会

## 地域共生社会の実現に向けて

ボランティアを求める方の本人発信事例として2つの事例を詳しくご紹介します。詳しくは中面へ



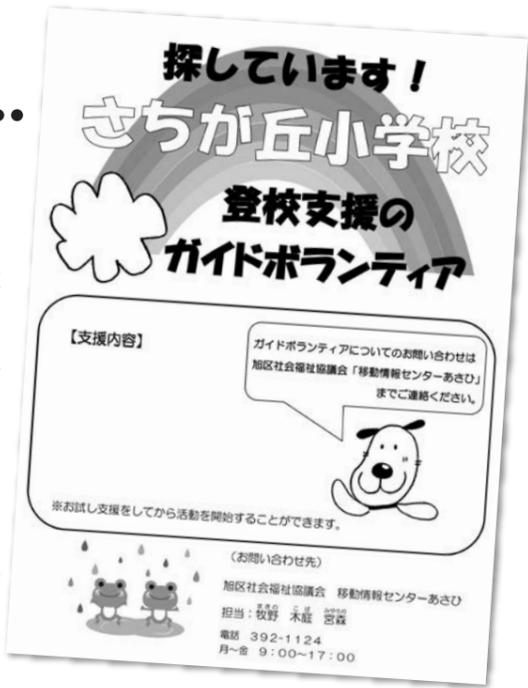
# 地域共生社会の実現に向けて～本人発信から広がる地域の支えあい～



## 地域でともに暮らし ともに支えあっていくために…

さちが丘地区に暮らすAさんのお母さんから「**登校支援をしてくれるボランティアを探してほしい**」という相談が、**移動情報センターあさひ**に寄せられました。Aさんは障害があり、1人では登校することが難しく、一緒に登校する人(ガイドボランティア)を探しているということでした。ガイドボランティアを探すにあたり、地域への声かけをお願いしたいというAさんのお母さんの思いを受け、自治会長に相談したところ、「**回覧板でボランティア募集を試みよう**」とアイデアをもらいました。

その後、「チラシを見た」という方がガイドボランティアとして活動をはじめてくれました。Aさんのお母さんが自ら発信した相談が地域の支えあいにつながった背景には、どのような思いがあったのでしょうか。



### Aさんのお母さんの思い

障害があっても地域の中で一緒に暮らしていることを知ってほしい、考えてほしいです。

### ガイドボランティアの思い

障害のある子どもにかかわる仕事をしてきた経験を活かし、自分のできる範囲で活動ができます。

### 移動情報センターあさひ担当の思い

地域でともに暮らす人たちにふだんのくらしのしあわせについて一緒に考えてもらえるようなコーディネートを大切にしています。

### ともに暮らし 支えあっていく ために…

### 地区担当の思い

「誰も」が日々の繋がりの中で、共に支え合う大切さに気付くような方法を地域の皆さんと一緒に考え、地域ごとの繋がりづくりができれば、地域共生社会に近づいていくのではないかと考えています。

### さちが丘地区 原自治会 佐藤会長の思い

Aさんのような世帯が暮らしていることや、ボランティア活動をしている人も一緒に暮らしているということを知ってほしいと思いました。今後も発信していきたいです。



## 「パソコンを学びたい」 その思いに答えて…

「**金銭的に余裕がないのですが、将来の就職を見据えてパソコンを学んでみたいんです。**」

Bさんは、友人からボランティアセンターのことを聞き、勇気を持ってボランティアセンターに相談をしてくださいました。Bさんは、統合失調症を患い病院やデイケアで過ごした時を経て、福祉制度やサービスを利用しながら、地域の中で一人暮らしをできるまでに回復し現在は安定した日々を送っています。

ボランティアコーディネーターが、区内で活動する複数のボランティア団体に掛け合ったところ、パソコンを通じた交流の場づくりを進めている「**パソコンを学ぶ会**」が引き受けてくださいました。Bさんの学習を始めるにあたり、日程調整をするために会のグループLINEにも招待し、会全体でBさんをメンバーとして受け入れてくださいました。



### Bさんの思い

将来の就職を見据えてパソコンを学んでみたい。



### ボランティアセンター 担当の思い

人が人を支えることから生まれる喜び、そしてその連鎖反応で周りが元気になっていく過程をそばで感じました。一人の声を大切に、ボランティアの担い手も受け手もいきがいを高められる地域にしていきたいです。

### 講師を務める 須田利正さんの思い

障害のあるなしに関わらず、パソコンを使えることが重要だと考えます。パソコンであらゆる障害を乗り越え、生きがいを見出していく手助けをしたいと思っています。



### 「パソコンを学びたい」 その思いに 答えて…

### 参加者の方からの声

「一人でやるよりもみんなと学ぶほうが楽しい!」



Bさんは「パソコンは難しいです…」と言いつつも、須田さんや周りのメンバーに「ありがとうございます」といつも感謝の言葉と気持ちが伝えていました。すかさず講師の須田さんは「難しいと思うのは当然のこと。諦めないことが大事! 習得度は人それぞれ。どんなことでも質問してほしい。」と声をかけ、そこには人と人が支え合うあたたかな風が流れていました。

### 事例を通して

映画「こんな夜更けにバナナかよ」の主人公が「人はできることより、できないことの方が多いんだぞ」という一節があります。主人公は、筋ジストロフィーにより24時間介護が必要でありながらも病院や施設を生活の場とするのではなく、ボランティアの力により自宅で生活を送っており、この映画は実話にもとづいて作られています。冒頭の一節は、人に頼らなければ生活ができない主人公が医師を目指す学生に言った言葉です。何をお伝えしたかったかという、「人は自分で何でもできることが大切ではなく、人と人との関係の中でどう豊

かな暮らしをつくるかが大切ではないか」ということです。この2つの事例で大切なことはそれぞれの声をつなげることで新たな活動が生まれ、お互いが豊かな気持ちになっていることです。地域共生社会の行きつくところは、こうした身近なところでの豊かな暮らしのつながりを重ねていくことにあるのではないのでしょうか。

平野 友康(横浜創英大学 講師・旭区ボランティアセンター運営委員会 委員長)

